

地図という 情報コミュニケーション基盤 を考える

— ICA (国際地図学協会) の活動報告と日本の貢献 —

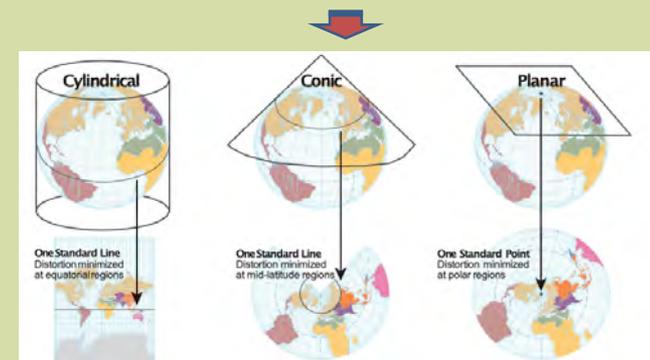
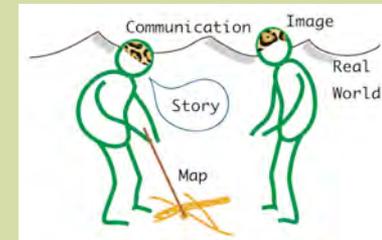


The image shows the header and main banner of the International Cartographic Association (ICA) website. The header includes the ICA logo (a globe with 'ICA' above and 'ACI' below), the text 'International Cartographic Association' and 'Association Cartographique Internationale', and a row of social media icons (Twitter, Facebook, LinkedIn, YouTube, RSS, etc.). Below the header is a blue navigation bar with links: 'News', 'Calendar', 'Publications', 'The Association', 'Members', 'Commissions', 'ICC Conferences', and '?'. The main banner features the text 'Advancing the disciplines of cartography and GIScience in an international context' and a large globe graphic with 'ICA' written above it. At the bottom right of the banner, it says 'Welcome to the website of the International Cartographic Association'.

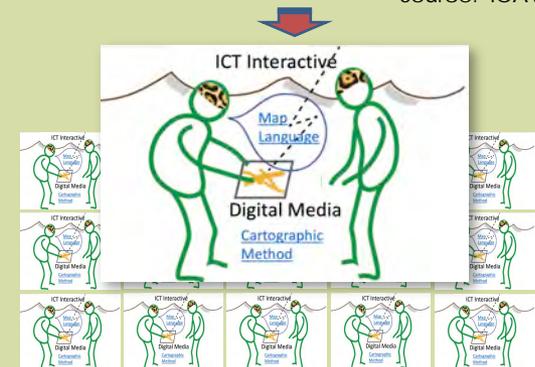
森田 喬 (連携会員、ICA小委員会前委員長)

地図とは？

- 地図は空間の縮小表現モデルであり、表現物として存在するとともに意味内容を持つ
- 地図は空間に関する諸課題への科学的探究に資するとともに社会生活の向上にも貢献している
- 地図は文理融合の「地図言語」として情報コミュニケーションの社会基盤を支える



Source: ICA+UN



地図の変遷

- 有史（文字）以前に抽象記号を用いた地図が出現
- 紀元前後までに空間を測って図化する測量/地図や、更には地球球体説や経緯度の概念などが出現
- 1000年頃から世界図が出現し、1500年頃の文芸復興期以降には科学的方法に基づいて地図が作られるようになり、さまざまな地図表現の方法が出現（地図投影法、等高・等深線、陰影段彩表現、数量の地図記号変換、など）
- 19世紀に入ると国の経営や産業社会の進展により地形図のみならず各種主題図の作成が盛んになる
- 1959年に International Cartographic Association (ICA) : 国際地図学協会が発足
- 近年では、ICTインフラの整備により文理融合の地図言語として誰もが地図を作り・使う空間情報コミュニケーションの社会基盤となっている

ICAの概要と日本の貢献

ICA (International Cartographic Association) の概要

- 1959年に発足、現在では世界約80カ国が加盟、2年ごとに国際地図学会議（ICC）を世界各地で開催
- 国際的なコンテキストにおいて地図および地理空間情報科学の発展を図ることを使命としている
- 約30の研究委員会を持ち、地図に関する標準化、システム化、データベース化、デザイン、制作、利用、教育、認知、歴史、原論、等について国際共同研究を組織化

日本の貢献

- これまで執行部役員として、副会長3名、名誉会員5名、コミッション委員長：6名、表彰委員会委員：3名、を送り込んでいる
- 国際地図学会議（ICC）を東京において2度開催（1980年：57カ国約600人参加、2019年：75カ国約1000名参加）

これから

SDGsの地図化

- ICAと国連が共同でSDGsの地図化について標準的な表現方法を提案
=> マッピング・リテラシーの普及と向上の促進

世界の安全と平和のために、宇宙から身近な生活空間まで様々なスケールで生じる諸課題に対して情報コミュニケーション基盤として文理融合の「地図言語」の高度化を図り社会貢献する

